

地震工学委員会

平成 24 年度 第 1 回(通算第 33 回)定例委員会総会 議事録

I 日時：平成 24 年 4 月 23 日（月）15:00～17:20

II 場所：土木学会講堂

III 委員会成立の確認

委員総数 118 名に対して、1/2 以上にあたる 94 名が参加（出席 53 名，委任状 41 名）しており，総会として成立することが確認された。

IV 配布資料

資料番号無し 平成 24 年度 第 2 回定例委員総会（通算第 33 回）議事次第

資料 33-1 平成 23 年度 第 2 回（通算第 32 回）議事録（案）

資料 33-2 平成 24 年度 委員構成（案）

資料 33-3 平成 24 年度 地震工学委員会新任委員（案）・正副委員長および運営幹事（案）

資料 33-4 平成 23 年度小委員会活動報告

資料 33-5 平成 24 年度地震工学委員会 予算案

資料 33-6 地震工学論文集 第 32 回地震工学研究発表会について

資料 33-7 16WCEE 日本招致に関する意見

資料 33-8(1) 東日本大震災関連の諸情勢

資料 33-8(2) 東日本大震災合同調査報告書編集委員会 準備会（第 1 回委員会）議事録

資料 33-8(3) 東日本大震災国際シンポジウム開催報告

資料 33-8(4) 「東日本大震災特別委員会」の終了（確認依頼）

資料 33-9 土木学会観測地震記録ダウンロードサイトの再構築と東北地方太平洋沖地震観測記録の追加

V 議事

1 開催挨拶（小長井委員長）

小委員会活動が活発に行われるのと並行して，東日本大震災に関する国際シンポジウムが 3 月に開催され，各種情報の発信やさらなる議論の時期になってきている。総会では活発な議論をお願いしたい。

2 総会議長選出（秋山幹事長）

委員からの総会議長への立候補がなかったため，事務局から小池委員（京都大学）を推薦して承認された。

3 前回議事録（案）の確認（秋山幹事長）

資料（33-1）に基づき前回議事録案の説明がなされた。修正・追加に関する意見は特段無く，議事録

案は承認された。

4 平成 24 年度 委員構成 (案)・正副委員長および運営幹事 (案) について

秋山幹事長より、資料 (33-2) (33-3) に基づき地震工学委員会の委員構成案に関する紹介、正副委員長および運営幹事案について提案があった。

・委員名簿について、実労働を担っている運営幹事を名簿先頭に記載するべきではないかという意見があった。これに対して、事務局より名簿は全委員会で共通形式ではあるが、正副委員長、運営幹事、委員、顧問の順番に記載変更が可能かどうか確認するとの回答があった。

→提案意見に基づき名簿の記載順番は更新された。

以上の質疑応答の後、H24 年度に推薦された顧問および新任委員、正副委員長および運営幹事案が正式に承認された。

5 平成 23 年度小委員会活動報告

資料 (33-4) に基づき運営幹事会および各小委員会より活動報告が行われた。括弧内は説明者を示す。

(1) 運営幹事会 (秋山運営幹事長)

運営幹事会および拡大運営幹事会の開催実績および予定が報告された。

(2) 耐震基準小委員会 (中島委員)

WG の活動実績および H24 年度は地震安全評価ガイドライン WG を重点化する旨が報告された。

(3) 地震防災技術普及小委員会 (木全委員)

3 つの WG の活動実績および H24 年度の開催予定行事について報告がなされた。

(4) 地震被害調査小委員会 (高橋委員)

・トルコ東部の地震への調査団派遣など委員会・WG 活動が報告されるとともに、H24 年度活動計画の中で地震災害への調査団派遣方法について説明が行われた。

(5) 地震工学論文集編集小委員会 (清野副委員長)

・地震工学研究発表会の開催報告 (発表者数、聴講者数) がなされた。
・土木学会論文集 A1 特集号 (地震工学論文集) の採択率は 8 割強であったこと、Volume number は開催回数を整合させるため、Vol.31B とする旨が報告された。

(6) 日本土木史「地震工学部門」編集小委員会 (庄司委員)

・H24 年度も前年度と同様に小委員会を 5 回程度開催する予定である旨の報告があった。

(7) 防災企画推進小委員会

・H23 年度は約 20 回の講座を開催した旨の報告があった。本小委員会は本年度で活動終了予定である。

(8) 強震継続時間が長い地震動に対する土木構造物の耐震性検討小委員会 (幸佐委員)

・3 つの WG の活動報告とともに、H24 年度はシンポジウムを開催予定である旨の報告があった。

(9) 地震・津波複合災害の推定手法および対策研究小委員会 (富田委員)

・H23 年度の活動報告および H24 年度計画の報告がなされた。東北地方太平洋沖地震を受けて、本小委員会の期間延長お行いたい旨の要望があった。

→延長申請は書類を以って行う。

(10) 石積擁壁の耐震診断・補強に関する研究小委員会 (橋本委員)

・ H23 年度に実験を実施した旨の報告があった。H24 年度には解析を行うと共に成果を取り纏めたシンポジウムを開催予定である旨の報告があった。

(11) リスク評価に基づく道路構造物・ネットワークの耐震設計に関する合同研究小委員会

・ 計画学委員会と共同で 5 つの WG を進めており、H24 年度は成果報告を兼ねたシンポジウムを冬に開催予定である旨の報告があった。

(12) 性能に基づく橋梁の耐震設計法に関する研究小委員会（星隅委員）

・ WG を中心とした H23 年度の活動報告とともに、H24 年度も性能に基づく橋梁等の耐震設計に関するシンポジウムを開催予定である旨の報告があった。

(13) ライフラインの地震時相互連関を考慮した都市機能防護戦略に関する研究小委員会（能島委員）

・ 東日本大震災に関する情報交換、議論を進めているとともに、H24 年度は小委員会での活動成果を踏まえたシンポジウムを開催予定である旨の報告があった。

(14) 国際化対応小委員会（小池委員）

・ 地震被害調査報告を英語で適宜情報発信することを目的として新設された、JSCE Disaster Fact Sheets に関する概要、利用方法に関する説明が行われた。

(15) 水循環 NW 施設災害軽減対策研究小委員会（竹内顧問）

・ 6 つの WG の活動報告とともに、H24 年度は委員会、シンポジウム、見学会をセットとして全国で 4 回程度開催予定である旨の報告があった。

(16) 津波避難調査小委員会（田中委員）

・ 大津波からの避難に関する国際ワークショップに関する開催報告とともに、H24 年度はこれまでの調査、議論を取り纏める予定である旨の報告があった。

(17) 東日本大震災による橋梁等の被害分析小委員会（幸佐委員）

・ 新設の小委員会であり、現地調査を含めて年 5 回委員会および WG を開催予定である旨の報告があった。

(18) 想定地震動研究開発委員会（市村委員）

・ 地震動評価などにおいて、理学系研究者との連携も行う旨の説明があった。

(19) 突発災害における避難誘導に関する調査研究小委員会（大野委員）

・ H24 年度は、小委員会開催に加えて暗闇時の高台避難に関する公開実験を静岡県で開催予定である旨の報告があった。

(20) 防災企画推進小委員会（後藤顧問）

・ 4 年間の活動報告（小委員会活動、土木学会重点研究課題等）について報告が行われた。
・ 本小委員会の成果等を踏まえて H25 年度より新しいテーマでの小委員会を提案すべき検討中である旨の説明があった。

■ 質疑応答

C : Van 地震による被害調査に関する英語論文は既に纏まっており、公開準備は完了している。

Q : 地震時における避難に関する小委員会が複数あるが、互いに情報交換をするなど連携は行われているのか。

A : これまで連携はしていなかったが、各小委員会は上手に役割分担出来るよう今後は連携を図っていく

たい。

以上の質疑応答の後、運営幹事会および各小委員会の活動報告・計画について承認された。

6 平成 23 年度収支報告および平成 24 年度予算案について

資料(33-5)に基づき秋山幹事長より収支報告および予算案の報告があった。質疑応答は無く、収支報告および予算案は承認された。

7 地震工学論文集 第 32 回地震工学研究発表会について

資料(33-6)に基づき清野委員長より H24 年度の地震工学研究発表会の開催および地震工学論文集に関する計画案について説明が行われた。質疑応答は無く、発表会および論文集の計画案は承認された。

8 16WCEE 日本招致について

資料(33-7)に基づき川島委員より、次回 WCEE の日本招致に関する背景・経緯・集約意見に関して説明が行われた。

- ・反対意見は無く、地震工学委員会として招致活動に賛成、協力することが合意された。
- ・招致に関する国内委員会の第 1 回を 4 月 27 日、第 2 回を 5 月 14 日に開催予定であり、意見等ある場合は e-mail など送付してほしいとの要望があった。

9 東日本大震災関連について

資料(33-8)に基づき、東日本大震災への対応に関する、(1)諸情勢、(2)報告書編集委員会準備会、(3)国際シンポジウム、(4)特別委員会終了について説明がなされた。

- ・(2)について、兵庫県南部地震に関する震災報告書の作成においても編集委員会は関連する学会間のハブとしての重要な役割を果たしており、今回も同様の役割が期待されているとのコメントがあった。

10 土木学会地震観測記録ダウンロードサイトについて

資料(33-9)に基づき高橋委員より地震観測記録ダウンロードサイトに関する概要および東北地方太平洋沖地震で観測され、JR 東日本および NEXCO 東日本より提供された地震記録について説明がなされた。

11 その他

- ・東北地方太平洋沖地震後に土木学会内で設置された特定テーマ委員会は、H24 年度中に終了した後、関連する常設の委員会に移行すると聞いているが、新設されるフォローアップ委員会との関係を教えてほしいとの質問があった。これに対して小長井委員長より正確な情報について事務局に確認する旨の返答があった。

→平成 24 年度第 2 回定例委員会総会において、小長井委員長より回答がなされた。

12 議長退任

全ての議事が終了したことを確認し、小池議長が退任された。

13 閉会挨拶（清野副委員長）

地震工学委員会は小委員会の活動を中心に活発に行われており、東日本大震災への対応でも重要な役割を果たしていると考えている。今後とも各委員のご協力をお願いしたい。

（作成者：中島）